

きょういく・さど



令和7年7月10日
佐渡市教育委員会
学校教育課

上位計画との整合性はとれてますか？

佐渡総合教育センター所長 山田 裕之

本年2月に改定された「佐渡市教育振興基本計画」の期間は令和7～8年の2年間となっています。なぜそんなに短いのでしょうか。その答えは計画の2ページに書いてあります。

……市の最上位計画である「佐渡市総合計画」の前期基本計画（令和4年度～令和8年度）の計画期間と揃えることで、本計画の次期改定が「佐渡市総合計画」の後期基本計画の策定と一体的にかつ連動して行えるようにすることを目指します。

法律に上位法優先の原則があるように、各種計画にも上位計画と整合した設計が求められます。今回の教育振興基本計画は、市の最上位計画との整合性を重視した改定と言えるでしょう。そして教育委員会では、この教育振興基本計画を最上位として、令和7年度の「教育行政基本方針」や「学校教育の重点」を定めています。

さて、みなさんの学校はいかがでしょう。年度初めに提出していただいた教育計画は、今年度の佐渡市教育行政方針や学校教育の重点と整合したものとなっているのでしょうか。前年度踏襲で作成を続けていると、いつの間にか齟齬や矛盾が生じている場合があります。活用の機会あるごとに複数の目で上位計画との整合性をチェックし、必要があればその都度修正するようお願いします。

6月から、学校訪問が始まっています。訪問時には、学校評価の取組について懇談する時間も設定されています。懇談をとおして、各校の計画の縦系列（佐渡市学校教育の重点⇒グランドデザイン⇒学校評価）と横系列（成果⇔教育活動⇔運営活動）の整合性について、一緒に確認できればと思っています。せっかく時間と労力をかけて取り組む学校評価ですので、佐渡市の教育施策をしっかりと反映した、学校や教職員、さらには子どもたちや保護者にとって意義あるものであってほしいと願っています。

「観」を転換して、 「子どもまんなか授業」を前へ

下越教育事務所指導主事 北川 禎

「思い描く未来の社会をつくる力をつけていくために、どんな授業がよいと思いますか。」という質問に対して、先生方の目の前の子どもたちは、どのように答えるでしょうか。以下は、「2024年度こども若者★いけんぷらす事業（こども家庭庁・文部科学省）」の報告資料より抜粋した子どもたちの回答です。

○自分たちが主体となって考える授業

- ・自分が調べようと思ったことを調べる授業（小学5・6年生）
- ・生徒たちが考えることをメインとした、生徒主体の授業、実践的な授業がいいのではないかな。（中学生）
- ・授業をするというより生徒が主体となった授業。与えられた課題に対して「やらされる」のではなく、自分で意思を持って必要な分をこなすようにできると良い。（高校生・高専生年代）

○自分のペースや興味に合った授業

- ・一人一人に特技や個性があると思うので、その個性を大事にした授業がいいと思う。例えば、この人はプログラミング、この人は小説を書くなど、一人一人が自主的な勉強ができる授業があるとよい。（小学5・6年生）

当事務所では、変化を予測することが困難な未来に対応するために、上記の回答のような、児童生徒が学びの主役となる授業を「子どもまんなか授業」として推進しています。その実現に向けて、以下のように私たちのもっている「子ども観」「教師観」を見直し、「授業観」を転換していく必要があります。

- ・講義形式の一斉授業など、児童生徒が受け身の従来型の授業



- ・個別最適な学びと協働的な学びを一体化した授業
- ・児童生徒一人一人が興味や能力に応じて異なる学習経路を選択できる複線型の授業

昨年度に引き続き、プロジェクト支援訪問では「子どもまんなか授業」の実現に向けた「授業観の転換」についてみなさんと一緒に学んでいます。支援訪問については、学校の実態に応じて随時要請を受け付けていますので、佐渡市内の学校全体で「子どもまんなか授業」を前に進めましょう。どうぞお気軽にご連絡ください。

佐渡ことば・こころの教室の歩み

教育指導主事 水谷 武

少し前の新聞に、通級指導教室で指導を受ける児童生徒数が、全国で20万人近くに達し、「これまでで最多」と紹介する記事を見つけました。また、県教育委員会からは、全国の通級指導教室数がこの10年ほどで「2.6倍に増加」との説明を聞きました。通級指導教室のニーズの高まりは、最近の特別支援教育を巡る顕著な動向の一つになっています。

本県の通級による指導の制度化は平成5年度からですが、佐渡ことば・こころの教室は、それより20年以上前の昭和45年、「佐渡・ことばの教室」として指導を開始しました。当時の島内10か市町村が教室の運営を支える独自の形は、全国的にも先進的な取組と注目され、後の佐渡市に引き継がれてきました。

教室の「ウリ」は、三つあると考えます。

一つ目は、指導対象者を、通常の学級に在籍する児童生徒に限定せず、特別支援学級や特別支援学校の児童生徒、さらに幼児や高等学校の生徒にも指導を行っていることです。

二つ目は、保護者支援も教室の大切な役割としていることです。開設当初から親の会が組織され、学習会などの事業をとおして子育てのヒントや悩みを互いに共有しています。

そして三つ目は、教室開設前から、「海を渡らず、佐渡で指導を」と、多くの方々の願いが結実し開設に至った歴史と、一人一人に応じた指導の成果や巡回・訪問指導などの実績が蓄積されていることです。

開設55年目を迎えた佐渡ことば・こころの教室は、これからも社会の変化やニーズに応えつつ、着実な歩みを進めます。12名の担当者は、教室開設以降一貫して大切にしている子どもと保護者に寄り添う姿勢で、引き続き佐渡の子どもたちを指導・支援していきます。

一人一人の成長に寄り添って

教育指導主事 中川 久雄

あさがおのめ

ねえ せんせい

みんなで おなじひに たねを まいたから

おなじひに めがでると おもっていたけど

みんな ちがうだね

この詩は、ある小学校の1年生が書いた詩です。同じ日に種を蒔いても、芽が出る日も、花が咲く日も、みんな違います。植物を育てた経験のある人なら、誰もが納得できることです。

人も花と同じで、成長するスピードがちょっとずつ違います。早くに成長する人もいれば、ゆっくり成長する人もいます。取り組んだことがすぐに成果となって現れる人もいれば、じっくり時間をかけて現れる人もいます。こんなふうに、成長の仕方は人それぞれなのです。

そして、誰が、いつ、どんなふうに伸びるのかは、自分ではわかりません。また、それは、親にも教師にもわからないのです。でも、誰にでも「自分は成長しているな」と思えるような成長期が必ずあります。〇〇さんにも、〇〇さんだけの成長期があるのです。今はまだ結果が見えていないのかもしれませんが、必ず、自分は力がついたと思えるときが来ます。それがあなたの成長期です。どうか、〇〇さんのペースを大事に、じっくりと、そして着実に、自分の人生を歩んでいってください。……

上の文は、私が校長時代、同級生とは別の卒業式に出席した卒業生へ送った式辞の抜粋です。そして、大げさに言えば、私の教育信条の一つでもあります。これからも、一人一人の子どもの特性や成長期を尊重し寄り添える支援者であり続けたいと思います。

あすなろ教室相談員として校内教育支援センターに訪問しています 二上 裕子

小学校3校、中学校3校に、週1回午前か午後には訪問し、子どもたちが自分のペースで安心して過ごせるよう、学校の意向に沿って、学習支援やおしゃべり、レクリエーション活動などを行っています。校内教育支援センターの利用が、子どもたちの心の安定、登校意欲につながるという、と思います。よろしくお願いします。

